

- 問1 九州地方の自然環境と火山に関係する地形の説明として、成り立ちや特徴が正しいものはどれか。 (2019年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 阿蘇山周辺に見られる広大なくぼ地は、河川の浸食作用によって数万年かけて削られたもので、九州地方最大の盆地である。 | 2. 火山灰が厚く積み重なってできたシラス台地は、保水力が非常に高いため、古くから稲作が盛んな地域として利用されてきた。 | 3. 火山の爆発や陥没によってできたカルデラは、阿蘇山だけでなく、海面の下に沈んで入り江となった鹿児島湾の一部にも見られる。 | 4. カルデラとは、火山から流れ出た溶岩が川をせき止めて作った平坦な土地のことであり、熊本県の中央部に広く分布している。 |
|---|--|--|--|
- 問2 沖縄県において、宿泊・飲食サービス業（8.3%）や医療・福祉（15.7%）などの第3次産業の就業者比率が、全国平均（それぞれ6.2%、12.5%）を上回っている理由や背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 豊かな自然や独自の文化を活かした観光業が盛んであり、地域の生活を支える医療・福祉の需要も高いため | 2. 製造業の自動化が全国で最も進んだ結果、余剰となった労働力がすべて観光分野に移動したため | 3. 広大な土地を活用した自動車産業の工場誘致により、関連するサービス業の雇用が全国一となったため | 4. 農林水産業に従事する就業者が不足しており、食料品を加工・提供するサービス業が唯一の産業となっているため |
|---|--|---|--|
- 問3 宮崎県の産業構造や農業の特徴について述べた文として、統計的な背景から判断して最も適切なものはどれですか。 (2023年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 急峻な傾斜地を利用した段々畑において、みかんやいよかんなどの果樹栽培が盛んで、農業産出額の大部分を占めている。 | 2. 温暖な気候や広大な土地を背景に、農業産出額の半分以上を畜産業が占めており、製造業よりも第1次産業の比重が相対的に高い。 | 3. 亜熱帯の気候条件を活かし、サトウキビやマンゴーなどの商品作物の栽培と、冬の温かさを利用した観光業に特化している。 | 4. 瀬戸内工業地域の一角を担っており、化学工業や機械工業などの製造品出荷額が、農業産出額を大幅に上回っている。 |
|--|--|---|--|
- 問4 宮崎市が位置する太平洋沿岸南部の地域で、冬でも温暖な気候となり、かつ夏から秋にかけて降水量が非常に多くなる主な要因の組み合わせとして、正しいものはどれですか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 暖流である黒潮の影響と、湿った季節風や台風の影響 | 2. 内陸の盆地による影響と、一年を通じて安定した高気圧の影響 | 3. 寒流である親潮の影響と、北西から吹く季節風の影響 | 4. 対馬海流の影響と、日本海側特有の冬の季節風の影響 |
|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
- 問5 鹿児島市付近に広がる、標高約40メートルの平坦な台地について述べた次の文を読み、空欄にあてはまる内容の組み合わせとして最も適切なものを選択肢から選びなさい。
- 「この地域は、かつての火山活動による噴出物が積み重なってできたシラス台地と呼ばれ、水が地下に染み込みやすく（①）には適さないという特徴がある。そのため、かつては厳しい生活環境であったが、現在ではその土地の特性を活かして（②）が盛んに行われている。」 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 1. ①畑作
②豊かな水源を活かした稲作 | 2. ①稲作（水田）
②畑作や茶の栽培、畜産業 | 3. ①果樹栽培
②稲作を中心とした大規模農業 | 4. ①畜産業
②ブドウやモモなどの果樹栽培 |
|-------------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
- 問6 日本の諸地域に見られる伝統的な住居の工夫について述べた次の文のうち、南西諸島の特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2020年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 住居の北側や西側に「防風林（屋敷林）」を植えることで、冬の厳しい寒風を防いでいる。 | 2. 敷地の周囲を石垣で囲い、屋根には赤瓦を用いてその隙間を漆喰で固めている。 | 3. 地面から床を高くした高床式の構造にすることで、地面からの湿気を通さないようにしている。 | 4. 屋根の傾斜を急にし、厚い茅（かや）で葺くことで、雪が滑り落ちやすくしている。 |
|--|---|--|---|
- 問7 鹿児島市中心部の1983年の状況と2004年の状況を比較した際、地図上の表現から読み取れる土地利用の変化として最も適切なものはどれか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 美術館の南側に、開いた本の形をした地図記号で表される図書館が新たに設置された。 | 2. 市街地中心部に位置する城山が削られ、大規模な住宅団地として再開発された。 | 3. 沿岸部において埋め立てが進んだが、港湾施設の整備により海岸線の形状に変化は見られない。 | 4. 駅の西側に位置する高等学校の敷地が大幅に拡大され、新たな校舎が建設された。 |
|--|---|--|--|
- 問8 ある都市の統計において、第3次産業の就業者割合が約84.5%と非常に高く、65歳以上の高齢者割合も約31.0%に達している場合、その都市の産業特性として考えられる内容を次の中から選びなさい。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 平野部において高度に機械化された稲作が行われており、周辺自治体に比べて第1次産業の就業者数が出ている。 | 2. 大都市圏のベッドタウンとして機能しており、都心部へ通勤する会社員が多いため、夜間人口が昼間人口を大きく上回っている。 | 3. 温泉などの観光資源を基盤とした宿泊業・サービス業が産業の主軸となっており、観光に従事する人々が産業の大部分を占めている。 | 4. 高速道路のインターチェンジ付近に半導体工場などの工業団地が形成されており、製造業に従事する第2次産業の割合が高い。 |
|--|---|---|--|
- 問9 13世紀に起こった元寇において、朝鮮半島から九州の博多湾を目指した元軍が、九州へ上陸する前に經由・侵攻した、九州の北西に位置する島を選択してください。 (2018年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 1. 対馬 | 2. 淡路島 | 3. 種子島 | 4. 壱岐 |
|-------|--------|--------|-------|
- 問10 福岡県内の主要都市を比較した際、福岡市は県全体の面積割合が約6.9パーセントであるのに対し、人口割合は約31.4パーセントを占めています。このような都市の状況を説明した文として最も適切なものを、次のうちから選びなさい。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 県全体の面積に占める割合は小さいが、人口が高度に集中しており、人口密度が極めて高い。 | 2. 広大な面積を活かして人口が分散しており、県内各地で均等な人口割合となっている。 | 3. 県全体の面積に占める割合が大きいため、人口が多くても人口密度は低く保たれている。 | 4. 面積割合に比べて人口割合が低いいため、都市部でも過疎化の問題が顕著になっている。 |
|---|--|---|---|
- 問11 福岡県の工業は、かつては北九州工業地帯を中心とした鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が盛んでしたが、1970年代の石油危機以降、産業構造に大きな変化が見られました。この変化の内容と背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 環境問題への対策として沿岸部の工場をすべて閉鎖し、福岡市を中心とした商業と観光業のみに特化する政策をとったことで、工業出荷額は減少傾向にある。 | 2. 1980年以降、製造業が県外の愛知県や神奈川県へ流出したため、工業地帯を縮小し、九州地方の特産品を活かした農業中心の産業構造へと転換した。 | 3. 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。 | 4. 石油危機を契機に北九州工業地帯の鉄鋼業をさらに強化し、海外からの原料輸入に頼らない自給自足の体制を整えることで、製造品出荷額を維持した。 |
|--|--|---|---|